

B工区地質記載シート

番号:B5-請負-計測工(地質)- 00008

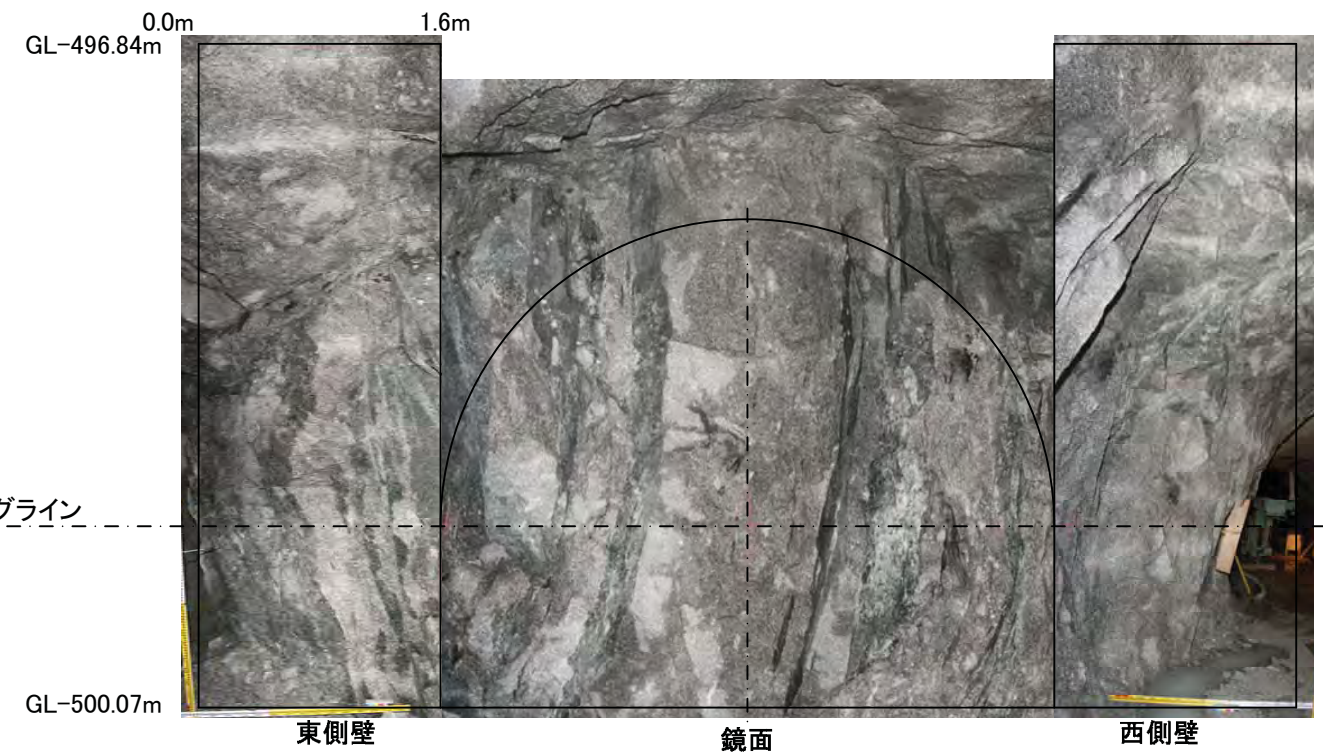
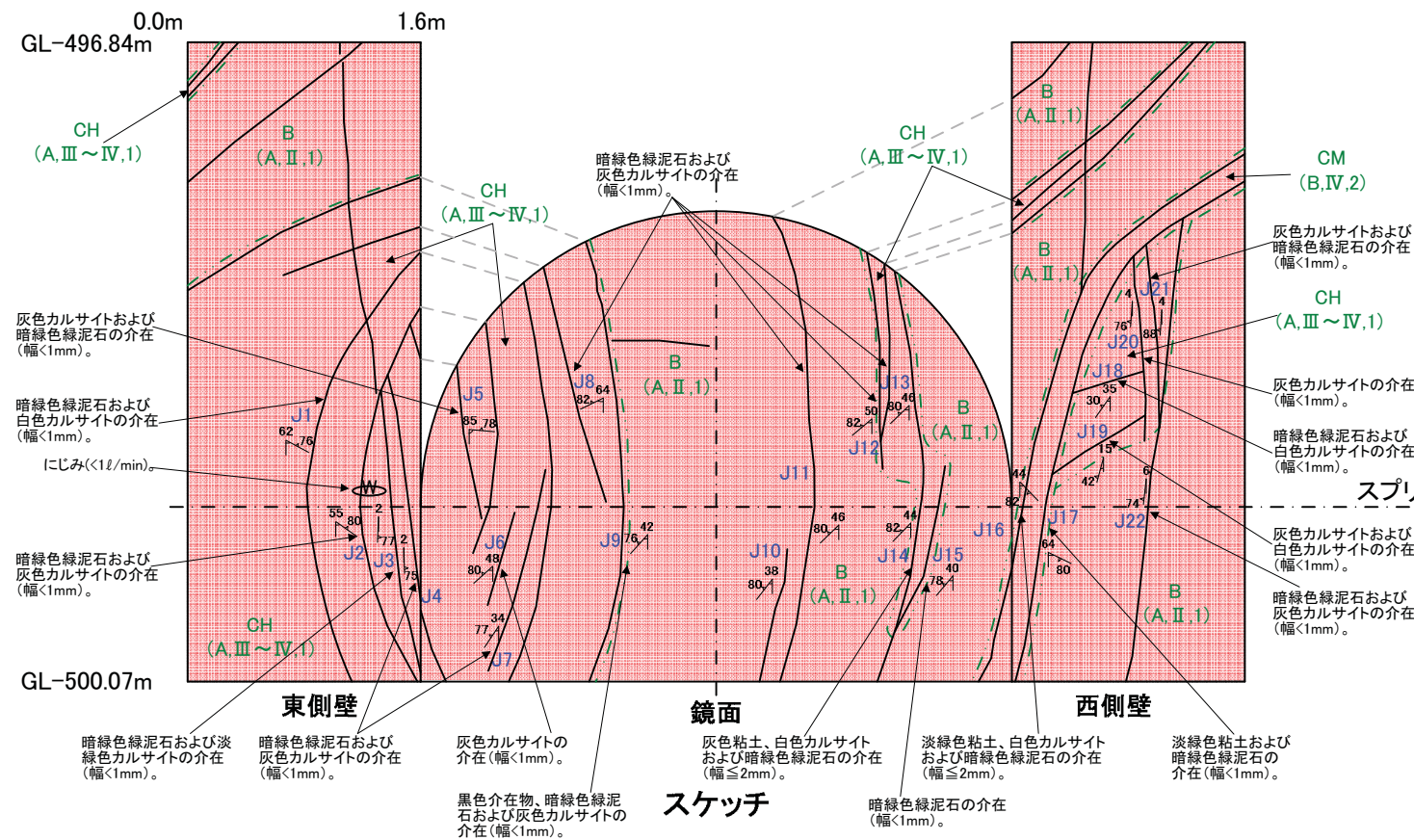
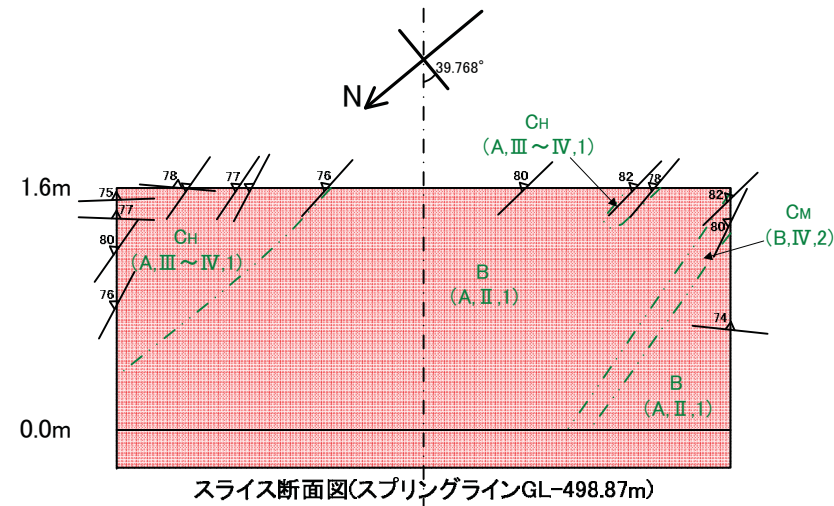
シート番号	265	日時	2012/6/22 16:00~18:00	位置・深度	500Y 避難所 ST1 G.L.-496.84~-500.07m 0.0~1.6m(No.2+5.000)	観察・撮影者	
-------	-----	----	--------------------------	-------	--------------------------------------------------------------	--------	--

凡例

: 花崗岩	: 変質部	: 岩級区分境界
: 割れ目	: 割れ目の傾斜・計測角	: 湧水

総括監督員	主任監督員	監督員

請負人 清水・鹿島・前田特定建設工事共同企業体
現場代理人



岩種	花崗岩	風化	α (新鮮)	RMR値	-496.84~-500.07m 63	特記事項 <ul style="list-style-type: none"> 中~粗粒花崗岩(灰白色): 等粒状の黒雲母花崗岩。鉱物の粒径は石英が5mm前後でしばしば複数個が1cm程の集合体をなす。長石類は3~20mmである。黒雲母は1~10mmである。有色鉱物の割合は7~10%程度である。 ハンマーでの打撃音は金属音~少し濁った音であり、岩盤は堅硬であるが、鏡面に向かって右側の西側壁の割れ目密集部では濁った音である。壁面全体では岩石は概ね新鮮で全体的には割れ目密集部の割合が少なく、岩盤等級はB級である。鏡面に向かって左側の東側壁、鏡面左側の1/3程度および鏡面右側の割れ目の多い部分はCH級、西側壁の粘土を介在する割れ目密集部はC級である。 主な割れ目として22条を抽出した。鏡面にほぼ平行なNE方向の走向を示す高角度割れ目(J3~J5、J22など)とNS~NNW走向を示す高角度割れ目(J1、J2、J9~J17など)が連続性が良く明瞭である。また、ほとんどの割れ目に暗緑色緑泥石およびカルサイトを介在する。鏡面右側には、NS~NNWの走向を示す高角度割れ目(J12~J15)が多く、灰色粘土を介在する割れ目(J14)が認められ、西側壁の割れ目密集部には、淡緑色粘土を介在する割れ目(J16、J17)が認められる。 湧水は、東側壁の割れ目(J2)から滲みが認められる。その他の壁面でも滲出程度の湧水が存在する可能性はある。 当箇所は予備ステージ避難坑であり、進行する方向はおおよそS50°Eである。 壁面観察は鏡面から2m離れた場所より目視観察で実施した。
	岩相	中~粗粒花崗岩(灰白色)	変質	1(非変質) (一部2(弱変質)を含む)	岩石試料番号	
		湧水	滲出	採水試料番号	なし	
		電研式岩級	-496.84~-500.07m B (A.II.1) -496.84~-500.07m CH (A.III~IV.1) -497.50~-500.07m CM (B.IV.2)			

B工区地質記載シート

番号:B5-請負-計測工(地質)- 00009

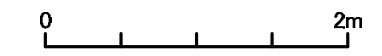
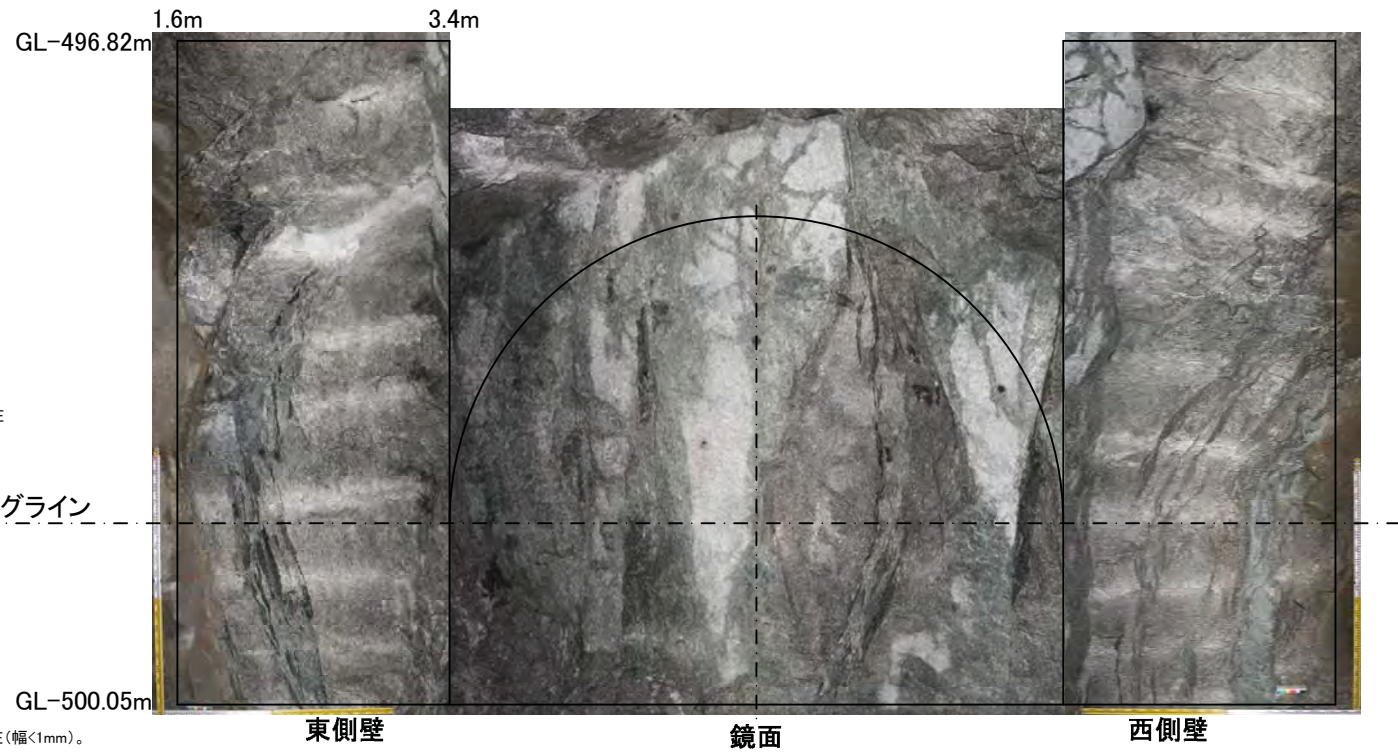
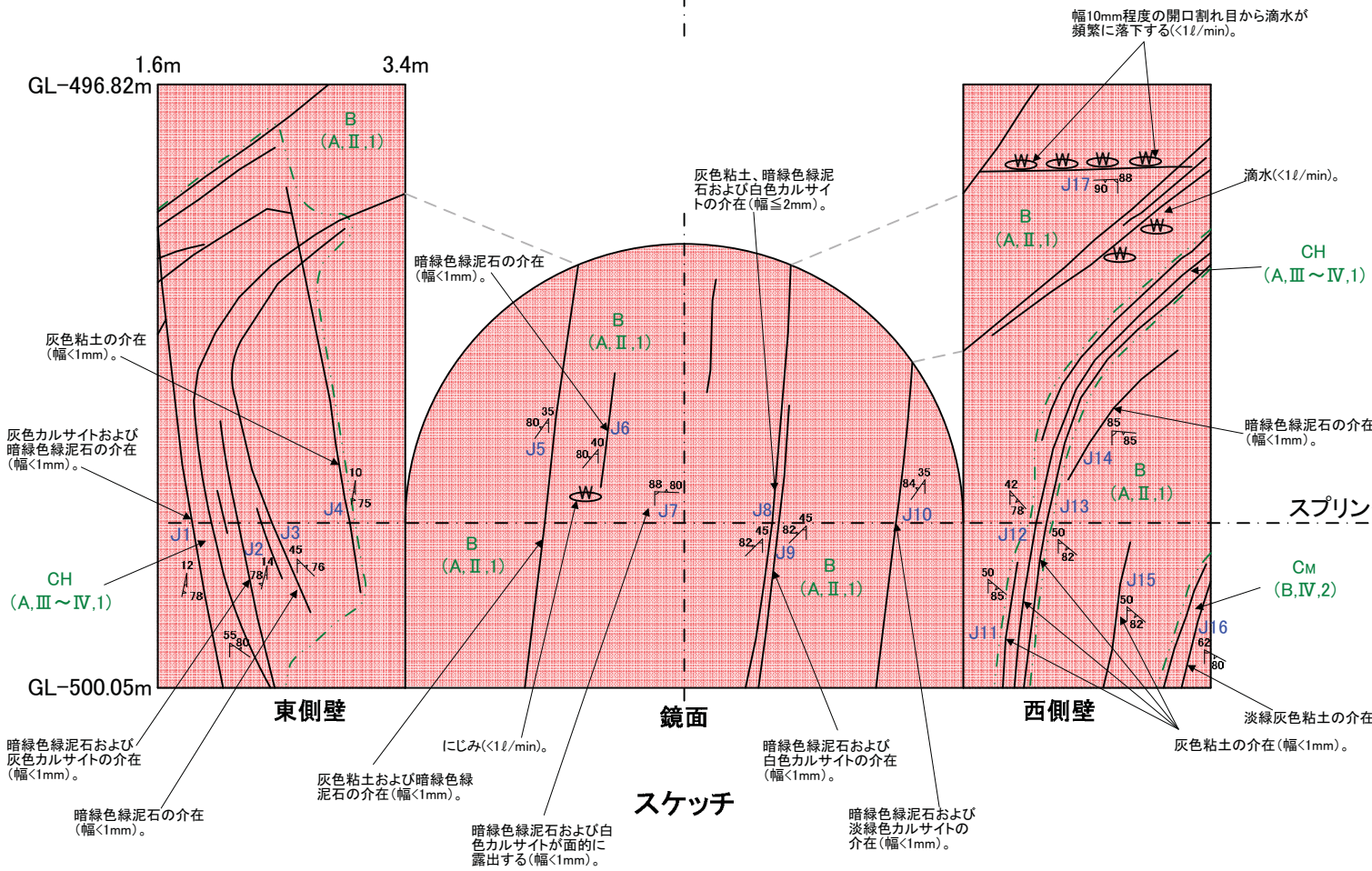
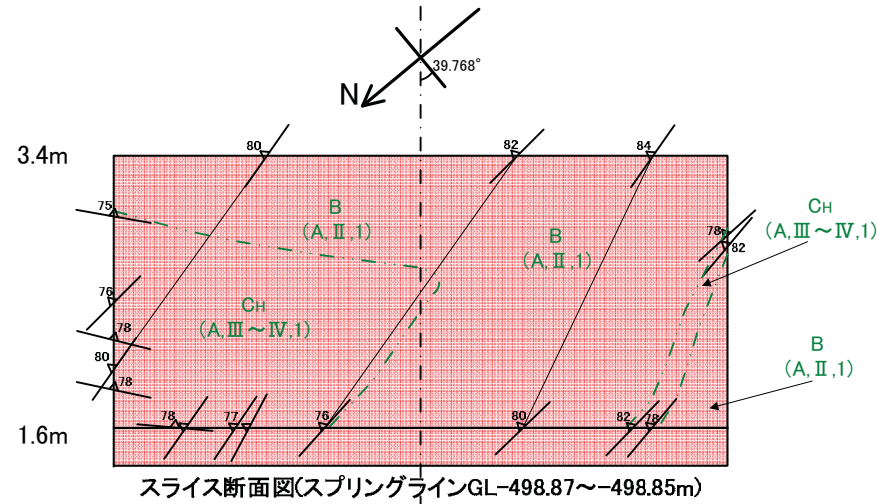
シート番号	266	日時	2012/6/26 11:00~13:00	位置・深度	500Y 避難所 ST2 GL-496.82~500.05m 1.6~3.4m(No.2+5.000)	観察・撮影者	
-------	-----	----	--------------------------	-------	-----------------------------------------------------------	--------	--

凡例

- : 花崗岩
- : 変質部
- : 岩級区分境界
- : 割れ目
- : 割れ目の傾斜・計測角
- : 湧水

総括監督員	主任監督員	監督員

請負人 清水・鹿島・前田特定建設工事共同企業体
現場代理人



岩種	花崗岩	風化	α(新鮮)	RMR値	-496.82~500.05m 62	特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・中~粗粒花崗岩(灰白色): 等粒状の黒雲母花崗岩。鉱物の粒径は石英が5mm前後でしばしば複数個が1cm程の集合体をなす。長石類は3~20mmである。黒雲母は1~10mmである。有色鉱物の割合は7~10%程度である。 ・ハンマーでの打撃音は金属音~少し濁った音であり、岩盤は堅硬である。壁面全体では岩石は概ね新鮮で全体的には割れ目密集部の割合が少なく、岩盤等級はB級である。やや割れ目が多い東側壁および西側壁の一部はC₀級、西側壁右下の粘土を介在する割れ目周辺部のみがC₀級である。 ・主な割れ目として17条を抽出した。割れ目傾向として2方向の割れ目が顕著であり、走向はNS方向またはNE方向を示し、傾斜はNS方向のものがE方向、NE方向のものがS方向に高角度(70°以上)で傾斜する。割れ目の多くには介在物が認められ、暗緑色緑泥石、淡緑~灰~白色カルサイトを介在する。また、一部の割れ目(J4、J5、J8、J11~J13、J15)に1mm未満の灰色粘土を介在する。 ・湧水は、天端付近の幅10mm程度開口した割れ目(J17)から頻りに滴水が落下し、一部は壁面を伝って流下し、西側壁上部から滴下する。その他の壁面でも滲出程度の湧水が存在する可能性はある。 ・当箇所は予備ステージ避難坑であり、進行する方向はおおよそS50°Eである。 ・壁面観察は鏡面から2m離れた場所より目視観察で実施した。
	岩相		中~粗粒花崗岩(灰白色)		変質		
湧水		滴水~滲出	採水試料番号	なし			
				電研式岩級	-496.82~500.05m B (A.II.1) -496.85~500.05m CH (A.III~IV.1) -498.95~500.05m CM (B.IV.2)		

B工区地質記載シート

番号:B5-請負-計測工(地質)- 00010

シート番号	267	日時	2012/6/28 15:30~17:15	位置・深度	500Y 避難所 ST3 G.L.-496.81~-500.04m 3.4~4.8m(No.2+5.000)	観察・撮影者	
-------	-----	----	--------------------------	-------	--------------------------------------------------------------	--------	--

凡例

■ : 花崗岩

☉ : 湧水

— : 割れ目

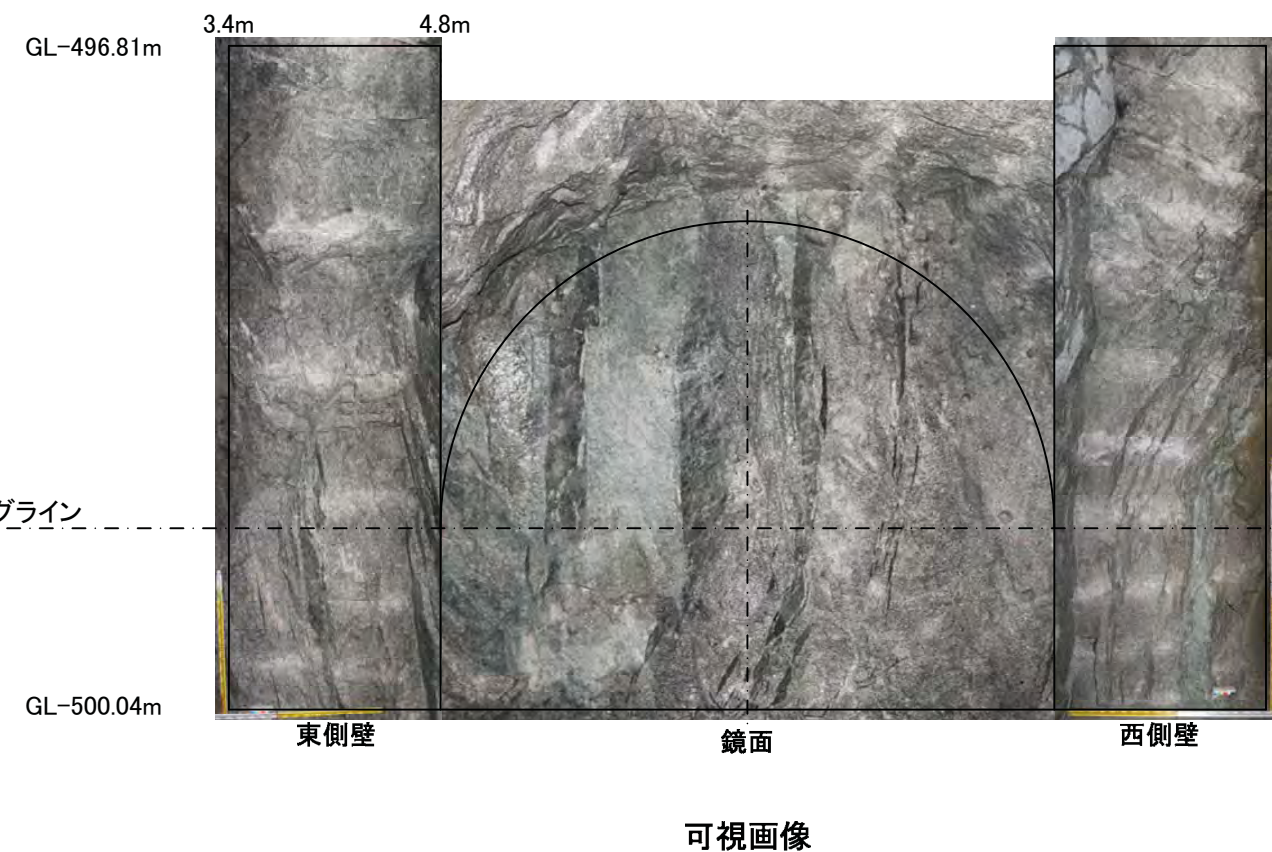
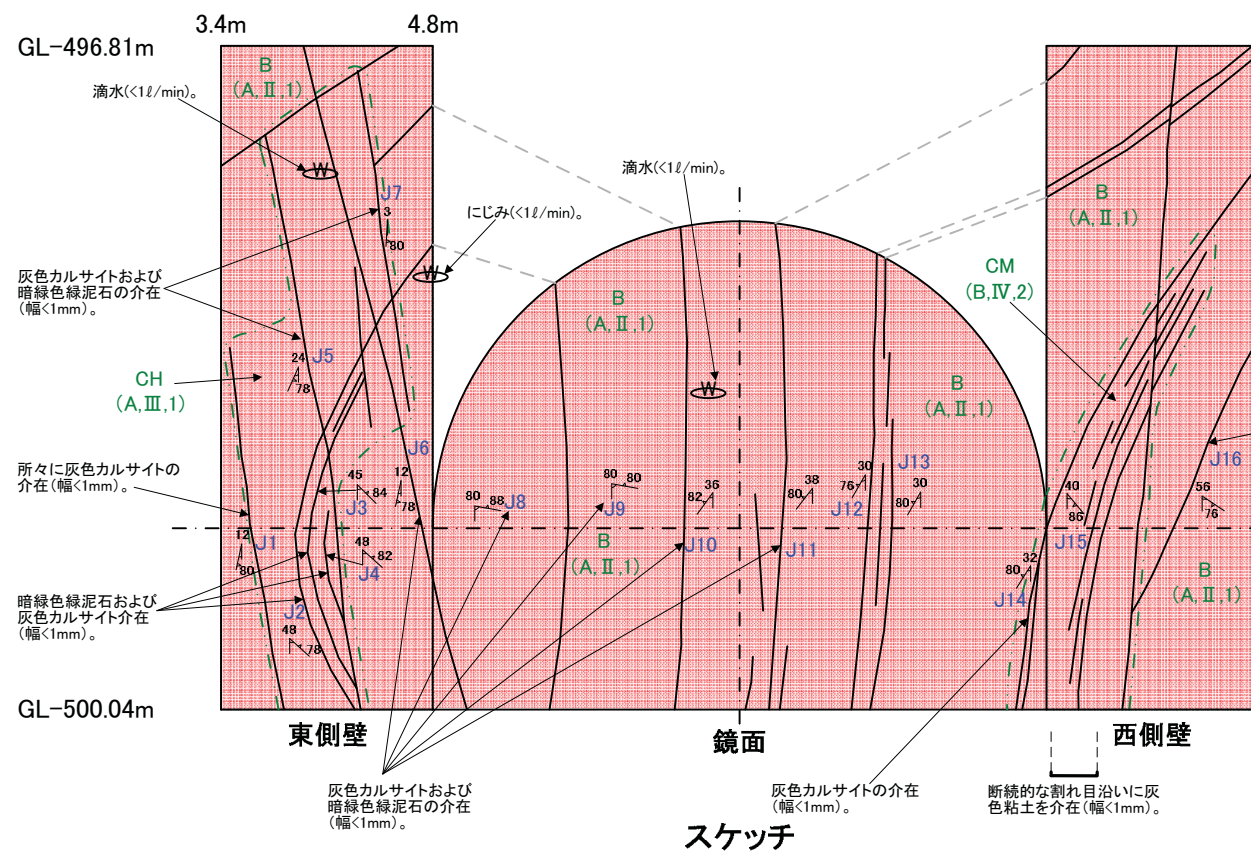
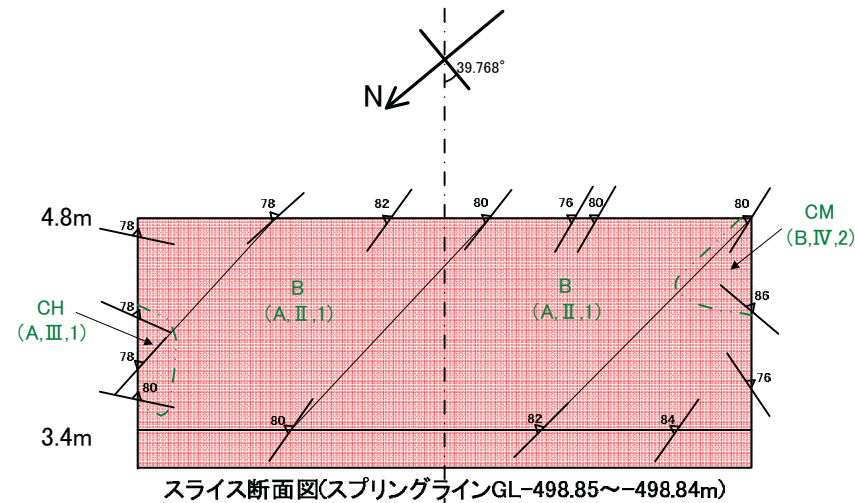
— : 割れ目の傾斜・計測角

--- : 岩級区分境界

総括監督員	主任監督員	監督員

請負人 清水・鹿島・前田特定建設工事共同企業体
現場代理人

TD3.40~4.80m



岩種	花崗岩	風化	α(新鮮)	RMR値	-496.81~-500.04m 64	特記事項	<ul style="list-style-type: none"> 中～粗粒花崗岩(灰白色)：等粒状の黒雲母花崗岩。鉱物の粒径は石英が5mm前後でしばしば複数個が1cm程の集合体をなす。長石類は3~20mmである。黒雲母は1~10mmである。有色鉱物の割合は7~10%程度である。 ハンマーでの打撃音は金属音~少し濁った音であり、岩盤は硬硬であるが、西側壁の割れ目密集部では濁った音である。岩石は概ね新鮮で全体的には割れ目の間隔が60cm以上の部分が多く、概ね岩盤等級はB級である。一方、やや割れ目が多い東側壁ではC₀級、西側壁の粘土を介在する割れ目密集部ではC₀級である。 主な割れ目として16条を抽出した。割れ目傾向として2方向の割れ目が顕著であり、走向はNS方向またはNE方向を示し、傾斜はNS方向のものがE方向、NE方向のものがS方向に高角度(70°以上)で傾斜する。割れ目(J12、J13を除く)には介在物が認められ、暗緑色緑泥石、灰色カルサイトを介在する。また、西側壁の割れ目密集部(J15)に1mm未満の灰色粘土、J16に2mm以下の灰色粘土を介在する。 湧水は、東側壁の割れ目(J6、J7)にしみ~滴水が認められ、鏡面の中央部の割れ目(J10)から滴水が認められる。その他の壁面でも滲出程度の湧水が存在する可能性はある。 当箇所は予備ステージ避難坑であり、進行する方向はおおよそS50°Eである。 壁面観察は鏡面から2m離れた場所より目視観察で実施した。
		変質	1(非変質) (一部2(弱変質)を含む)				
岩相	中～粗粒花崗岩(灰白色)	湧水	滲出	採水試料番号	なし		
		電研式岩級	-496.81~-500.04m B (A,II,1) -496.84~-500.04m CH (A,III,1) -497.10~-500.04m CM (B,IV,2)				

B工区地質記載シート

番号:B5-請負-計測工(地質)- 00011

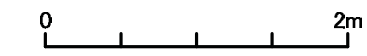
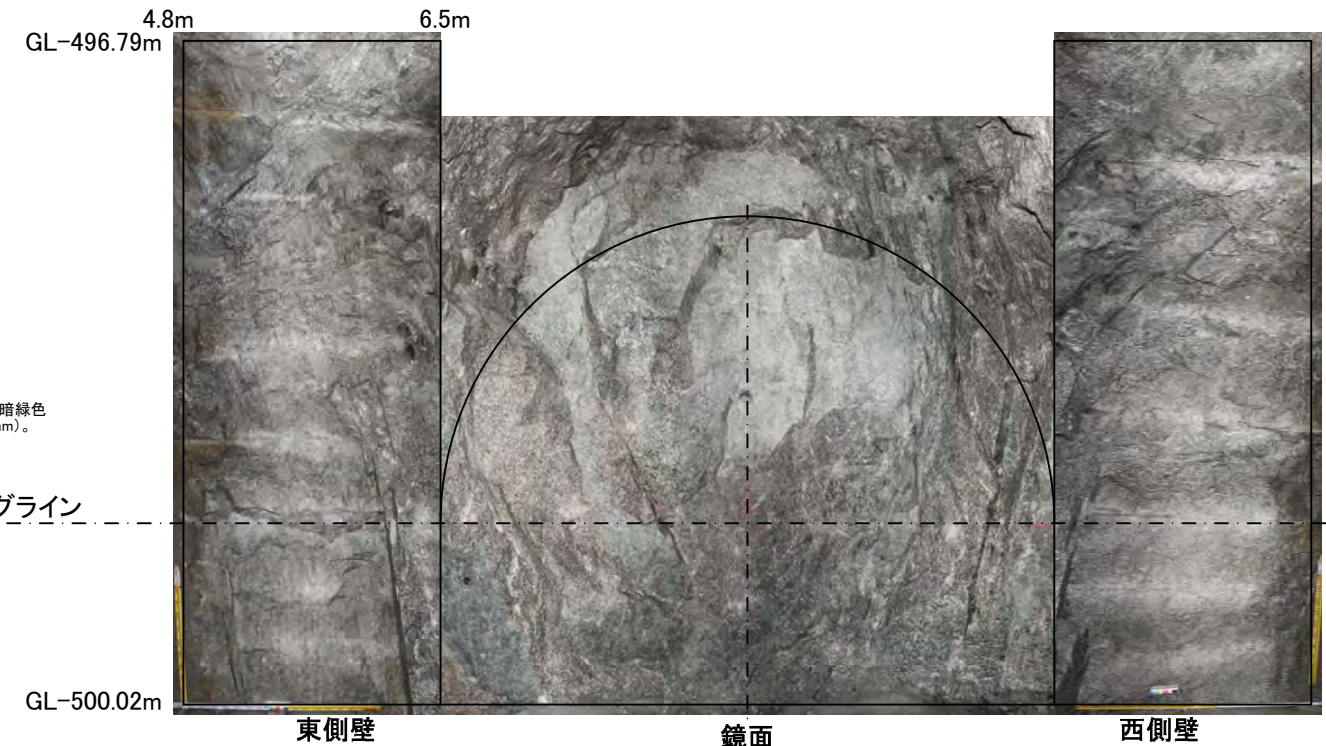
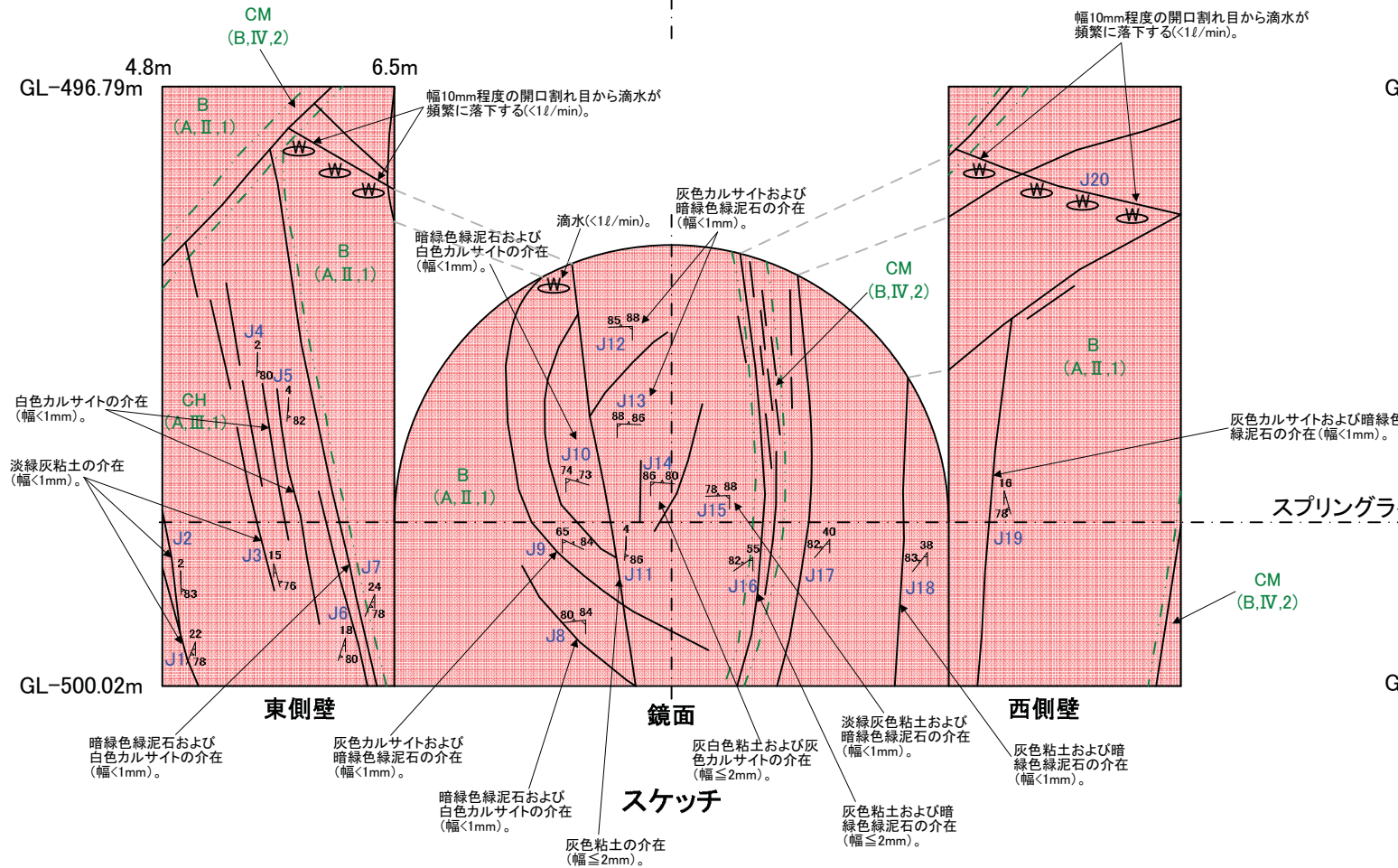
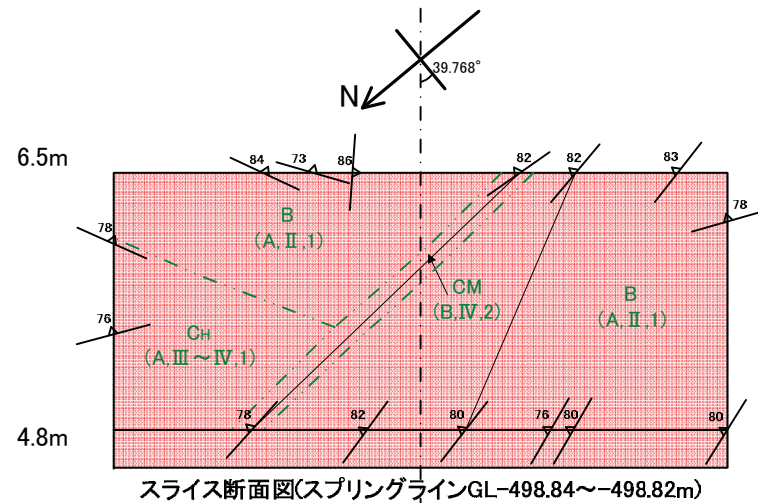
シート番号	268	日時	2012/7/5 16:30~18:15	位置・深度	500Y 避難所 ST4 G.L.-496.79~-500.02m 4.8~6.5m(No.2+5.000)	観察・撮影者	
-------	-----	----	-------------------------	-------	--------------------------------------------------------------	--------	--

凡例

- : 花崗岩
- : 湧水
- : 割れ目
- : 割れ目の傾斜・計測角
- : 岩級区分境界

総括監督員	主任監督員	監督員

請負人 清水・鹿島・前田特定建設工事共同企業体
現場代理人



岩種	花崗岩	風化	α(新鮮)	RMR値	-496.79~-500.02m 61
		変質	1(非変質) (一部2(弱変質)を含む)		
岩相	中~粗粒花崗岩(灰白色)	湧水	滲出	岩石試料番号	なし
		電研式岩級	-496.79~-500.02m B (A.II.1) -497.00~-500.02m CH (A.III.1) -496.79~-500.02m CM (B.IV.2)		

特記事項

- 中~粗粒花崗岩(灰白色)：等粒状の黒雲母花崗岩。鉱物の粒径は石英が5mm前後でしばしば複数個が1cm程度の集合体をなす。長石類は3~20mmである。黒雲母は1~10mmである。有色鉱物の割合は7~10%程度である。
- ハンマーでの打撃音は金属音~少し濁った音であり、岩盤は堅硬である。岩石は概ね新鮮で全体的には割れ目の間隔が60cm以上の部分が多く、概ね岩盤等級はB級である。一方、やや割れ目が多い東側壁はCH級が主体、鏡面右側の粘土を介在する割れ目(J16)周辺部がCM級である。
- 主な割れ目として20条を抽出した。鏡面右側の粘土を介在する割れ目(J16)より左側から東側壁には、NE方向の走向を示す高角度(70°以上)割れ目が顕著である。上記の割れ目(J16)より右側から西側壁では、NS~NNW方向の高角度(70°以上)割れ目が優勢である。一方、湧水を伴う割れ目(J11、J20)は、NW方向の走向を示す。顕在化した割れ目(J6、J17、J20を除く)には介在物が認められ、暗緑色緑泥石、淡緑~灰~白色カルサイトを介在する。また、一部の割れ目(J1~J3、J11、J14~J16、J18)に淡緑灰~灰色粘土を介在する。
- 湧水は、天端付近の幅10mm程度開口した割れ目(J11、J20)から頻りに滴水が落下する。その他の壁面でも滲出程度の湧水が存在する可能性はある。
- 当箇所は予備ステージ避難坑であり進行する方向はおおよそS50°Eである。観察は鏡面から2m離れた場所より目視観察で実施した。

B工区地質記載シート

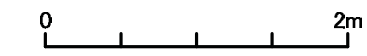
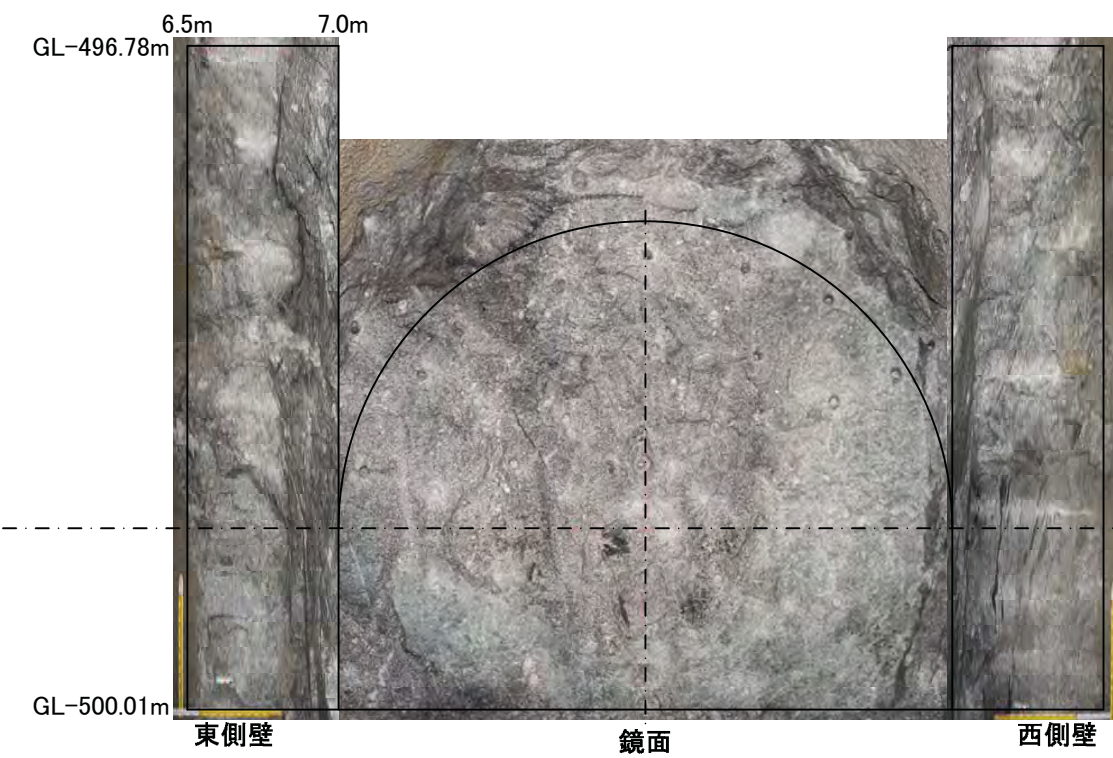
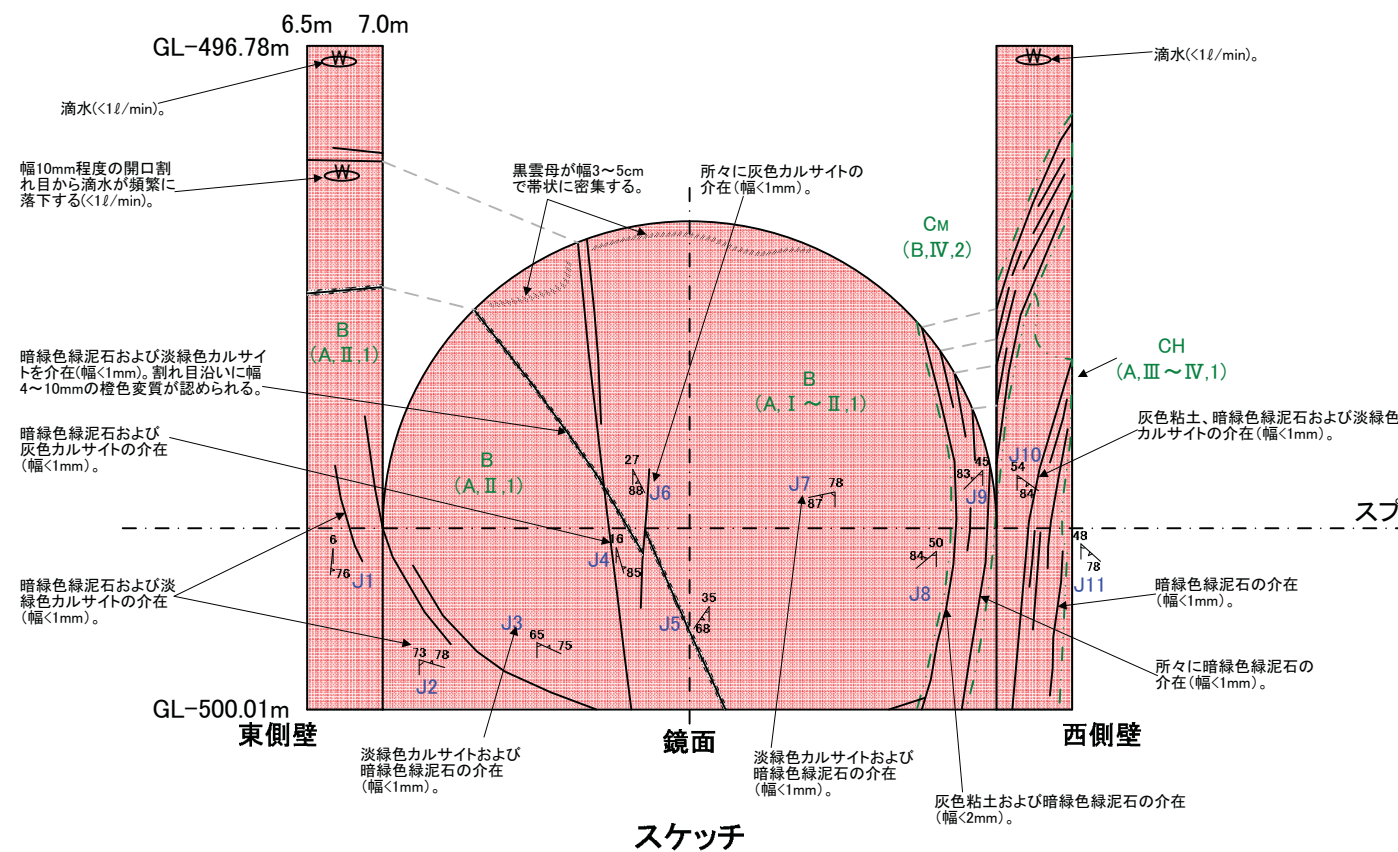
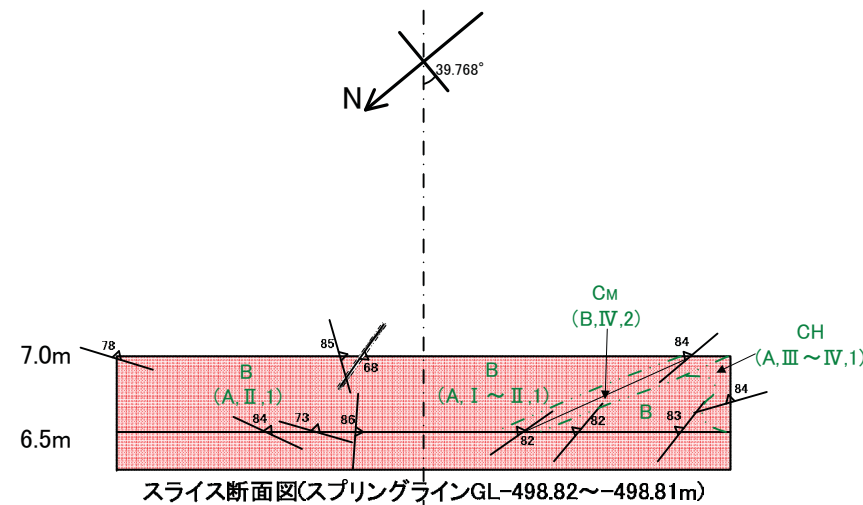
番号:B5-請負-計測工(地質)- 00012

シート番号	269	日時	2012/7/9 16:00~17:20	位置・深度	500Y 避難所 ST5 G.L.-496.78~-500.01m 6.5~7.0m(No.2+5.000)	観察・撮影者	
-------	-----	----	-------------------------	-------	--------------------------------------------------------------	--------	--

- 凡例
- 花崗岩
 - 変質部
 - 岩級区分境界
 - 割れ目
 - 割れ目の傾斜・計測角
 - 湧水
 - 黒雲母密集部

総括監督員	主任監督員	監督員
-------	-------	-----

請負人 清水・鹿島・前田特定建設工事共同企業体
現場代理人



岩種	花崗岩	風化	α (新鮮)	RMR値	-496.78~-500.01m 63
		変質	1(非変質) (一部2(弱変質)を含む)		
岩相	中~粗粒花崗岩(灰白色)	湧水	滲出	岩石試料番号	なし
		電研式岩級	-496.78~-500.01m B (A.I~II.1) -497.60~-500.01m CH (A.III~IV.1) -497.10~-500.01m CM (B.IV.2)	採水試料番号	なし

特記事項

- 中~粗粒花崗岩(灰白色)：等粒状の黒雲母花崗岩。鉱物の粒径は石英が5mm前後でしばしば複数個が1cm程の集合体をなす。長石類は3~20mmである。黒雲母は1~10mmである。有色鉱物の割合は7~10%程度である。
- ハンマーでの打撃音は金属音へ少し濁った音であり、岩盤は堅硬である。岩石は概ね新鮮で全体的には割れ目の間隔が60cm以上の部分が多く、全体的に岩盤等級はB級である。一方、割れ目が多いものの、ハンマーの打撃音が金属音を発する西側壁下部はCH級である。また、割れ目が多く、ハンマーの打撃音が濁った音を発する鏡面右側の粘土を介在する割れ目(J8)周辺部がCM級である。
- 主な割れ目として11条を抽出した。鏡面右側の粘土を介在する割れ目(J8)より左側から東側壁には、NE方向の走向を示す高角度(70°以上)割れ目(J1~J3, J7)が認められる。上記の割れ目(J8)より右側から西側壁では、NS~NNW方向の走向を示す高角度(70°以上)割れ目(J8~J11)が優勢である。一方、湧水を伴う割れ目(J4)は、NW方向の走向を示す。また、鏡面左上から中央にかけて階段状に連続する割れ目(J5)には、幅4~10mm程度の弱変質が認められる。これらの顕在化したほとんど割れ目には介在物が認められ、暗緑色緑泥石、淡緑~灰色カルサイトを介在し、一部の割れ目(J8, J10)に灰色粘土を介在する。
- 湧水は、天端付近の幅10mm程度開口した割れ目(J4)から頻りに滴水が落下する。その他の壁面でも滲出程度の湧水が存在する可能性はある。
- 当箇所は予備ステージ避難坑であり進行する方向はおおよそS50°Eである。観察は鏡面から2m離れた場所より目視観察で実施した。